

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

論述式 (1行30字 1行×1、2行×1、3行×3、4行×1、5行×1 計21行)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

第1問が古代、第2問が中世、第3問が近世、第4問が近現代からの出題で、昨年度と同様であった。第4問では、高度経済成長期までの範囲が問われた。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 5行	女官の職務や政治権力との関係と9世紀前半における変化	天皇権力と密接な関係を持っていた女官のあり方について、条件文(1)・(2)・(3)から読みとり、それを「律令制下での職務」と「政治権力との関係」に分けて整理する。そのうえで、「9世紀前半」における「変化」を条件文(4)・(5)から解釈したい。	やや易
第2問	論述 A 1行 B 4行	A 御成敗式目制定の方針 B 御成敗式目と分国法の関係	Aは、史料(1)の(注)も参照し、簡潔に指摘したい。Bは、史料の引き写しをせず、史料(1)の御成敗式目と(2)の塵芥集とを比較し、さらに(3)の結城氏新法度とも比較したうえで、具体的な規定を抽象化しながら「関係」を論じる必要がある。	やや難
第3問	論述 A 2行 B 3行	A 山村に石高がなかった理由 B 18世紀における山村の経済面での特徴	Aは、石高制に関する理解をもとに、山村である「清内路村に石高がなかった」理由を考察する。Bは、「米を生産する農村と比較して」という設問の付帯条件を念頭に置きつつ、条件文(2)を参照しながら、条件文(3)から読みとれる「18世紀」の「経済面」での「特徴」をまとめていく。	標準
第4問	論述 A 3行 B 3行	A 戦中と戦後とで女性の労働状況が変化した理由 B 高度成長期における女性の働き方の変化とその背景	Aは、条件文(1)の情報に、「戦中と戦後」の社会状況に関する知識も援用しながら、当該期において女性の労働状況が変化した理由を考察する。Bは、設問の付帯条件である「背景」については、条件文(2)・(3)の情報に、「高度経済成長期」の社会状況に関する知識を関連させる。さらに、条件文(4)を参照しながらグラフの傾向を読みとり、主題である「女性の働き方」の「変化」を考察する。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

過去問を用いた演習で、日本史の理解と解法の習得の度合いを確認し、それを日頃の学習に活かしていこう。作成した答案は、添削指導を受けることが望ましい。形式面では、条件文から読みとれた情報を解答に反映させる解法に慣れていきたい。内容面では、詳細な知識は問われないものの、政治・外交や社会・経済の基本的な構造・仕組みに関する深い理解が要求されるので、量よりも質を意識した学習を進めたい。また、文化史については作品の暗記だけの学習では通用しないことを意識し、各文化の特徴の把握につとめよう。